

開催地名：愛媛県宇和島市	
開催日時	令和4年11月27日(日) 12:50 ~ 14:20
開催場所	宇和島市立奥南小学校
語り部	菅野 祥一郎 (岩手県陸前高田市)
参加者	奥南小学校児童・保護者・教職員・公民館・防災組織・消防 100名
開催経緯	奥南地区では、災害後、防災さんぽを実施し、安全な避難経路を確認するための防災マップの作成に取り組み、防災フェスティバル等で防災啓発活動を実施してきた。防災活動に取り組む中で、沿岸部でありながら津波に関しての防災や津波被害者の体験談等がなく、津波から命を守る知識や実践力が不足している現状がある。今回は奥南地区の奥南小学校での講演を実施することで、児童のみでなく、保護者や地域住民に対して、防災意識を高めたいと考えている。
内容	<p>(1) はじめに</p> <p>私は岩手県の南、宮城県に接している陸前高田という地域に住んでいる。岩手県の太平洋側は、非常に入り組んだリアス式海岸なので、津波の高さが増すことで大きな被害を受けた。既に東日本大震災から11年が経ち、テレビ等で報道されることも少なくなってきた。皆さんのほとんどがまだ生まれる前の災害なので仕方がないが、露出が減ると、もう自然と人々は、災害のことを忘れてしまうような雰囲気がある。うまくお話しできるかわからないが、あの震災が起きた時の体験をこれからお話ししたいと思う。</p> <p>津波災害には3つの特徴がある。1つ目は、一度に多くの命が奪われてしまうことである。東日本大震災で亡くなった方々は、ほとんどが津波で犠牲となられた。2つ目は、遺体が遠くに流されてしまうことだ。行方不明者が多いのはこのためだ。3つ目は、忘れられてしまうということだ。東日本大震災の前に三陸地方で被害を受けた「チリ地震津波」は、もう50年以上も前の出来事である。津波は、台風のように毎年やって来るわけではない。頻繁に来ないことはいいことだが、前回被害にあったときから間隔がかなりあいてしまうため、いつの間にかその怖さを忘れてしまうのである。</p> <p>(3) 命を守るとは</p> <p>地震が発生したときに所用で校外にいた私は、急いで学校に戻ろうとしたが、津波注意報が発令されたため、途中の橋が通行止めになってしまい、非常に焦った記憶がある。何とかして学校に戻った時、子どもたちや近隣の住民は校庭に整列していたが、既に津波は川をさかのぼり始めており、時間の猶予はなかった。校舎に入った方がいいと言っている人もいれば、学校の裏に逃げようと言っている人もいたが、私は、丸太の階段を使って、6年生から順番に隣の山の上に登るように指示した。校長と担任の先生の指示に従い、子どもたちも周りの大人たちもすぐに登り始めた。つい先ほどまで校門付近にいた数十人の人たちは、私たちのそばからいつの間にか消えてしまった。校舎に逃げた人たちは、屋上の貯水槽の上に登れた一人の方を除き、流されてしまった。私の小学校の子どもたちが助かった理由と、住民の生死を分けたものは何なのか。それは、「誰よりも早く逃げることを決断したこと」、つまり「率先避難」に尽きると思う。子どもにつられ、地域の人たちも走ったことにより、多くの命が助かった。人間には、自分に都合の悪い情報を無視する気持ちがあるため、「津波はまさかここまで来ないだろう」とか、「ここにいれば大丈夫だろう」といった気持ちはどうしても芽生えてしまう。しかし、この気持ちを振り切って避難を指示し、実行したことが命を救ったのだと思う。</p>

(4) 避難所では

私たちの学校の子どもたちは全員が助かった。そして、何日か経つにつれて迎えに来る家族の人も増えた。いや、正確には迎えに来て帰る家がないのだから無事確かめに来た、と言った方がいいのかもしれない。ある子には最後まで誰も迎えに来ることはなかった。その子がどんな思いで家族が来てくれるのを待っていたか、みなさん想像がつかうだろうか。本当に辛かったと思う。

このような状況の中で、信じられない人間もいた。遺体から財布の中身を盗む者たちだ。なぜこのようなことをするのか、目を疑った。皆さんは絶対このようなことをする人間にならないでほしい。

(5) 皆さんへのお願い

皆さんに、是非お願いしたいことがある。それは「命を大事にしてください」ということである。まずは自分の命を、そして隣人の命を。必死に逃げても力尽き、亡くなってしまった女の子がいる。どんなに怖かったらうか。生きたくても、何の予告もなく人生を断ち切られてしまったのだ。人生には思いもよらないことが起こる。だから、今、この時を大切にして、生きていることの幸せをかみしめて、誰の命でも大切にする人になってもらいたい。

人間の記憶は時間とともに薄れてしまうものだが、11年前の東日本大震災で起こったこと、残された教訓、防災の心構えだけは忘れないでいただきたいと思う。地震だけでなく、いろいろな災害が日本中で発生しているが、自分の命を守るために想像力を働かせて、日常生活の中でいろいろな経験を積んでほしい。そして、気づき、考え、行動することを忘れずに、生きる力を育ててほしいと思う。



開催地より

東日本大震災の体験談と児童に対する避難誘導についてとともに、津波の怖さだけでなく、立ち上がろうとする人間の強さ、頑張っている子供のことについてもお話を伺った。今後は、被災したときにどのように考えて行動して命を守るかということを意識し、様々なケースを想定した避難訓練を行っていくとともに、学校と地域、行政との連携にも取り組んでいきたいと思う。